

ちいさなまちの ちいさな楽しみかた





いつも車で通りすぎるまちを、歩いてみると、違う風景が見えてくることはありませんか？
子どもと遊ぶようになって、近所の公園が居心地のよい場所に変わったりしませんか？

いろいろな世代ごとに、たかほまでの「わたしの楽しみ方」があるはずです。「こんな場所があったかな？」と興味を持ち、「こういう想いの人がいるんだな。」と心にとめていただけたら、きっと見え方が変わってくるのでは。知れば知るほど味がある、それが私たちのまちですから。

小さいまちだから小さい楽しみを見つけないにはぴったりかも



撮影場所／高浜ニコニコ鬼広場、カフェ＆ベーカリーふるふる、横浜橋、春日庵、鬼のみち、高浜市観光案内所ONI-House



「折り方で柄の出方が変わるんですよ。」
折り紙も、お話を聞いていると特別なものに見えてくる。



高浜市やきものの里
かわら美術館
青木町九丁目6-18
☎52-3366
月曜休館
(祝日の場合翌平日)

わたしの楽しみかた
「かわいい」
「素敵」を
さがして



一人で過ごす休日は、カメラをバックに入れて散歩。見慣れた風景のなかに「かわいい」「素敵」を見つけます。鬼のみちをテクテク歩くと、小学生のときから展覧会を見にきていた『かわら美術館』。ミュージアムショップをのぞいてみたら、かわいいグッズをディスプレイ中の、コーディネーターの佐藤奈々さんと出会いました。

「小さな雑貨でも、作家さんがこめた思いを聞くと、自分が考えてもみなかったこと、見過ごしてきたことに気づかされてハッとすることがありますよ。例えば、ここで扱っている、木工作家さん用のスプーン。お店で使い捨てのものをもらうんじゃないかと、あえて、木のスプーンで食べると思うと、味わいも違ってくるような(笑)、暮らしが丁寧になるような気がしませんか？それをミュージアムショップに来たお客さんにも伝えられたらいいなって。」

確かに、少し聞いただけでも見え方が変わってくるような気が。お仕事、楽しそうですね。「展覧会にあわせて品物をセレクトし、反響があったらともうれしいです。何かプレゼントを探すなら、かわら美術館のミュージアムショップがいいんじゃない？と言われるようになりたいんです。そんな場所をつくることをめざしています。」と、笑顔の佐藤さん。ひとつひとつストーリーを教えてください、これまでとはちよっと違う視点でかわいいもの探しができるかなと思えたひとときでした。



雑誌社で働いた経験もある佐藤さんに、ディスプレイのことや小物の写真の撮り方のアドバイスをもらいました。「その物の一番かわいく見える角度、後ろに何があったら、より色が映えるかななどをよく見てから撮影するといいですよ。」





「コーヒープレスを使えば、ひとり分でも気軽にいれられますよ。」 初心者にはうれしいアドバイス。

わたしの楽しみかた

仕事帰りにコーヒーを



最近、コーヒーが気になる。我ながら大人になったような気がする。市内のカフェで、豆のことならスギコーヒーだと聞き、少し緊張しながら店主の杉浦さんを訪ねてみた。「コーヒーも、ワインのように、農園、標高などが味に影響しています。実際、その豆の産地に行き、環境を見て、空気を感ずることで、本当に理解できるよ」に思うんです。「いきなり深い話が…。実家は、もともと市内の別の場所です。コーヒー豆の卸売兼喫茶店だった杉浦さん。僕も最初は、家業だから始めた感じだったんですよ。」と気さくな人柄。「でも、勉強するうちにも少し弱くなつて。当時は、まだ日本ではコーヒー豆の種類などもあまり知られていなくて、勉強会に参加したり、海外の展示会を調べたり、自分でどんどん情報を集めました。とにかくもっとおいしいコーヒーを！という気持ちで原動力でしたよ。」自分の今の年齢ぐらいのころの話に思わず身を乗り出して聞いてしまう。「自分の育ったまちでコーヒーのおいしさを広めたいなと思っています。幼稚園のお母さんたちに呼ばれて講座をしたりしていますよ。おいしいな、と思えば、また新しい味を試してくれるだろうし、相談されれば好みに合わせて紹介もできる。それが楽しみです。」



さまざまな風味の種類について説明してくれる杉浦さん。

たかまの散策道「鬼のみち」と市民ムービー「タカハマ物語」をイメージしたコーヒー



「果物みたいな風味がするでしょうか？」
確かに！教えてもらいながら飲むと新発見がいろいろ。



(株)スギコーヒー
ロースティング
湯山町五丁目2-3
☎52-8505
日・月定休



ウナギのTシャツ。オーダーメイドのデニムも魅力的



ご主人は写真嫌い?で、代わりに奥様とちょっと眠いお嬢さんが出てきてくれました。



EXODUS
Bagle&Cafe
EARTH SMILE
湯山町四丁目5-6
☎87-8670
火定休

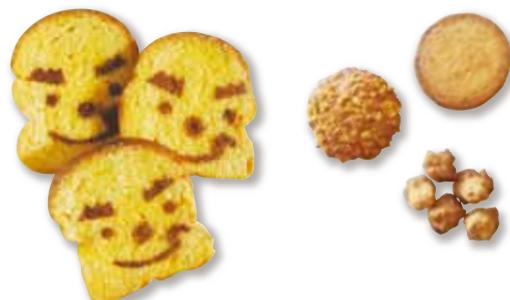
2人の話を聞いていたら、地元密着でかっこいい大人になれそうな気がしてきました。今日も仕事帰りに、コーヒーを飲みにいこうかな。

「カフエは、意外にも50〜60代の方が多くいます。20代と同じぐらいの割合かもしれない。服のオーダーの方も、その年代の方が多いかな。ヴィンテージデニムが流行したころを知っている40〜50代が、こだわりの一点に魅力を感じているのかもしれない。ちなみに『おまんこ』の乗馬スポンも作っていますよ。」

スギコーヒーを教えてくださいましたのは、ESカフエの糟谷公昭さん。地元産の小麦を使ったベーグルがおいしいと評判のカフエと、オーダーメイドの洋服店がいつしよになっている。どうしてこのまちで? 「結婚を機に高浜市に帰ってきたんです。うちの奥さんもこっちの方がいいって言うから。実家も近いし、子育てのこともあるかな。地元が好きで、近所の方が気軽に寄ってくれるお店にしたかったんです。」

わたしの楽しみかた おやつで こころウキウキ

たかはまの味の代表株といえ、B-1にも出展の「とりめし」ですが、おいしいおやつもいろいろありますよ。食育のキャラクターをかたどったり、ネーミングが瓦のまちを表したり。地元の素材を使うこだわりや、身体にいいものという気配りも地元密着のお店ならでは。手土産にするなら、ちょっとまちを語る味を選ぶのがいいですね。



Angelique、おかしやみづき、(株)おとうふ工房いしかわ、オレンジボックス、カフェ&ベーカリーふるふる、スカイラーク、SOLDELI、(有)パピヨン、(株)麩や銀、(株)松鶴園

大きなすべり台や、
ウェーブ型の遊具
で人気の中部公園

JAあいち中央産直センター
高浜で年1回の農業まつりも
ファミリーで賑わいます。



わたしの楽しみかた 公園やイベントに 家族でLet's Go!

子どもたちの笑い声が響く中部公園と、秋の味覚満載の『農業まつり』で、子どもづれ・ファミリーをパチリ! 「結婚して、高浜市にきました。」 「子どもが生まれて、高浜市に家を建てました。」 という方が多い中、「地元生まれ地元育ちの幼馴染夫婦です!」と生粋の高浜人のご夫婦も。

新しい世帯が増加中の神明町や向山町。このまちの良さは? という問いかけには、こじんまりとして、身近に公園やスパーがあり住みやすいという声。

家族の時間を大切にし、地域のイベントにも参加して、子どもたちに楽しい思い出をたくさん作ってあげている姿がとても素敵。





上)「中学生と赤ちゃん
親子のふれ愛交流
事業」子育て応援
団PamPamチャイ
ルド主催
下)子育て支援施設「い
ちごプラザ」



高浜市の出生率1.8 全国的に見ても 高いです

わたしの楽しみかた
あかちゃんとの
時間が
教えてくれること

毛受惠理さん、隼太くん、昂太くん



教員である毛受さんは現在育児中。週に数回、いちごプラザを利用しているという。母親になって変化は？「子どもがかわいくて愛おしいです。それと、生徒たちの親御さんの気持ちが本当の意味で理解できたような気がするんです。大切に思っている人の存在に改めて気づいた感じ。これは、仕事を続けていくうえでとてもよかったです。」と語ってくれた。『中学生と赤ちゃん親子のふれ愛交流事業』には計5回ほど参加。中学校に出向き、出産や育児の話をするボランティアだ。「男子は赤ちゃん相手にオドオドしていて、でも強引に抱っこさせると急に笑顔になるのがかわいい(笑)。育児中は世界が狭くなる気がするけど、子育てしている自分でも世の中の役に立てるんだと実感できるいい機会だと思えます。」育児が始まってから住みはじめた高浜市。「よく遊ぶのは中部公園、丸畑公園。人形小路、おいでん横丁も、子どもづれOKのところには積極的にいきます。まちがこじんまりしていて、すぐにいろんなところに行けていいですね。」



月1回のオニマルシェ



ママたちの口コミはすごい！
楽しいことを詰め込んで
おしえてあげたい！



高取地区でひそかな話題をよんでいるのが、まちづくり協議会女性メンバーの手作りエリアマップ『とりしるう』。教室やお店などの情報満載。地域で楽しく子育てを、と先輩ママたちの意気込みが熱い！





けんこうじせいち
健康自生地(商標登録第5486837号)
H27.11.1現在78か所
たかま元気deネット <http://www.takahamashi.info/>
高浜市の高齢化率 18.8%(H27.12.1現在)

わたしの楽しみかた どんどん外へ でること

高齢者の皆さんの閉じこもり防止のために、自分からどんどん出かけていきたくなるような場所をたくさん作ろう!という取組みから生まれた「健康自生地」。吉浜地区で開催された「健康自生地ツアー」に同行してみました。スタートは、体調や天候のことを話題にしながら比較的静かに歩いていきましたが、お店に入った途端「あら、これはお値打ちだね!」「これきつと似あうわよ!」と雰囲気は一変!ギャラリイでは作家もののアクセサリーやステンドグラスにうつとり。コーヒータイムになるころには、参加した皆さんの顔色に赤みが差し、瞳もキラキラにやっばり、お出かけは楽しいものです。



撮影場所/万久、吉貴、もちきち、サロンぼっぼぼ



小さなまちの西の端っこは、海。昔は、渡し船で対岸の東浦町や半田市に渡っていたそうだ。芳川町の海岸は、釣り糸を垂れて、風に吹かれてポーっとするのにはもってこいの場所だ。夏場、衣浦の海はハゼ釣りで賑わう。冬は、渡り鳥がやってくる。夕焼けの風景も、すごくきれいだ。稗田川沿いや、田戸町の高浜川河口の辺りの風景もなかなかだと思っ。

わたしの楽しみかた 気分転換は 水辺がいい



わたしの楽しみかた おしゃべりと ウォーキング

毎朝の日課は、近所のママ友と稗田川沿いをお散歩。6年ぐらい続けています。おしゃべりしながらなので、約45分のコースですが、あつという間に終わってしまいます。体力づくりと健康維持のために始めましたが、朝の新鮮な空気を吸いながら、季節を感じてお散歩するのはとっても気持ちいいです。気のおけないお友だちと、子どものことや仕事の話、地域の話、たわいもないことを話していますが、そんなおしゃべりが楽しくて、毎朝続けられているのかもウォーキングを始めてからは、体調もよく、体力もつきました。お通じもよくなりますよ。何でも気楽に楽しく続けるのが大事ですね。





敷地内の工房。木の香りのなかで家具作りする薫彦さん。1階のスペースは、さまざまな用途に使われる。



青木町七丁目3-48
☎95-5619
水・木定休

自由につながりながら、
豊かな人生を共有する
暮らしかた

ギャラリー彦六

田島薫彦さん
久子さん



「人付き合いは変わったね。
広がって、刺激がある。」
「どんどんつながるって感じね。」

ギャラリー彦六は、移りゆくたかまの姿を撮りとどめた先代・田島彦司さんの写真を中心に、木製家具やさまざまなジャンルの展示が行われるギャラリー。訪れると、天井の高い落ち着いた空間で、ゆったりとした時間の流れに包まれる。

オーナーの田島薫彦さんは50歳で自動車関連メーカーを早期退職してギャラリーを開いた。

かなり思い切った決断だったのでは？と尋ねると「海外出張で出会った方たちの影響が大きいかな。プライベートを大切に楽しむ姿がいいなと思っていました。」と語る。

「会社で、『定年後の過ごし方を考えよう』みたいな話を聞く機会があったんですよ。仕事上の付き合いだけだと定年後つらいよ、地元でも友だちを作りなさいよ、というような教育だったと思います。自分の『老後』を考えた最初だったかもしれないですね。ちょうど父が体調を悪くし、写真店という職業柄、ギャラリーをやってほしいという声もあった。自分の趣味の木工もあわせて『ものづくり』に関わることをしてみようかなと人が集まって、つながりができる場をつくりたいなと思ったんですよ。やっぱり、同年の友人たちの存在も大きかったですよ。」

久子さんは「夫が定年退職したらどうやってすごしていくんだろ」と漠然と不安でした。でも、早期退職したいと相談されたときは、何となく、あと5年やったら？と答えました。そしたら、その5年って男にとってはすごく大きいなだよと言われて。そうなんだあ、じゃあ、いいよって（笑）。「よくOKしたよね（笑）。確かに5年後だったら、状況は違っていたかもしれない。」

例えば、今、当時の田島さんの年代の方に何か伝えるとしたら？

「女性はもともと社交性があるけど、男性が60歳すぎてから急に地域に入るのには勇気がいるよね。周りにもそういう人がいて、それで、町内会役員を思い切ってやってみてよかったか言っている。もちろん、会社での体験もいかせているはずだし。なにより、人って、身近に、話をしたり、ちょっと飲みに行ったりする相手がいないと、よくないことになっていく気がするんですよ。私は、父の撮った昭和の写真を見せ、それをもとに人の話を聞く、話す、それを続けていくうちに、まさに詳しくなったし、たかまに愛着をすごくもつようになった。」

久子さんも「今となっては、こうなるように、道ができていたのかもしれないって気がします。夫の決断に感謝もしていますよ。以前なら想像もなかったいろいろな分野の方々と知りあえて、つながれた。出会いのおかげで今まできました。『おかげさま』に尽きるわ。」

取材の最後に薫彦さんがひとこと。「今の年齢だから思うことかもしれない。でも、こういうことをもつと若い人が思ってくれば、きつとまちはよくなるよ。」

自分の 「やりたかったこと」が まちの風景に

鬼みちの一画、旧道坂の
家族の物語

旧道坂のお福さん
ミニギャラリーJIN

岩月裕子さん
仁さん



旧道坂で生まれ育った旦那さんの想い入れと、おたふく・ひよっところが大好きな奥さん、そんな母に中学時代「お福さん」の人形をプレゼントに買ってきた娘さん、そして、14年前、事故の後遺症からの復活のために絵を始めた息子の仁（JIN）さん、家族の想いのつまったお店。

なだらかなカーブを描く「旧道坂」。景観イメージにぴったりなお店は平成16年に開業。住まいの部分は15年くらいは経っているだろうという。屋根に3つのついている「お福さん」は、特別にお気に入りの人形をもとに、市内の瓦職人さんに作ってもらった。

裕子さんは熊野市（三重県）の出身。父親が瓦焼の燃料となる木材を船で運び、帰りは瓦を積み、地元で商っていたという。それが縁で、廻船問屋であったこの家に嫁いだ。

「もともとは、カメラ好きの主人にくっついて、あちこち旅しては土地の人との触れあいを楽しんだり、民芸品・工芸品を少しずつ集めるのが趣味でした。

歳をとったら、そういう小物を飾って、近所の人がお茶に寄ってくれるような場所を作りたいなど、漠然と思っていたんですが、直接

「仁くんって皆さんが声をかけてくれて、
ほどよく緊張して店にでるのよ。」



のきっかけは、息子が交通事故に遭ったこと。会社に行っても、後遺症で前のようにはできない。自宅の仕事ができればと家族で一念発起。改築して開業したんです。ここなら、近所の人から声をかけてもらえる環境で、自分のできることをしたいけるかなと思って。」

仁さんは事故後、3年間入院。裕子さんは夫婦で通い、マヒした手に色鉛筆を持たせて、描くことを促し続けた。

再起は難しいという医師の見立てに抗うかのように熱心にリハビリを続け、今は店に立つ。描く絵は、線も色も柔らかくて優しい。

「家族や店のことで手一杯で、地域に貢献…なんてやれてきていないと思うんだけど、子どもが幼稚園や小学校のころに役員をいっしょに務めたお母さんたちが、今でも店に来てくれるの。あれこれ話して力づけあえる、いい仲間です。」

お店の営業は週末だけ。ちよつとたまった疲れを、お福さんの笑顔と温かい飲み物が癒してくれるはず。



青木町三丁目6-1
☎53-0433
金・土・日のみ営業



お福さんがお店のあちこちに!娘さんからの贈り物の人形の後ろには、仁さんの描いた羊。取材のときも申の年賀状を製作中でした。





まちづくりの合言葉は
思いやり 支え合い
手と手をつなぐ 大家族たかほま

ちいさなまちの ちいさな楽しみかた

「しあわせ」がテーマだった昨年の特別号で、高浜市の「しあわせづくり計画」に関わるコミュニティデザイナー・山崎亮さんが教えてくれたのは「自分で楽しさを生み出せる人は人生ずっと楽しい」ということ。そして「まちの見方を変える」ことで「魅力」をみつけられ、その人にとっての「地元」が変わるということでした。

いま、データをみると「新しく高浜市に住む」という人口の動きは20~30代の方が最も多くなっています。仕事の関係か、転出の割合もこの世代が多いのが実情ですが、30代後半は定着傾向が見られ「家族で、このまちで暮らしていこう。」と思う方が増えているといえるのではないのでしょうか。

ちいさなまちでの暮らしを楽しむ仲間が増えて、つながりももっともっと深まるといいですね。

若い方の地元志向が強いといわれる現代、豊かな地方暮らしがメディアに取りあげられることも多くなっています。そのひとつ『ソトコト』は若い世代からも注目されている雑誌です。本誌にコメントをいただきました。

「ちいさい」「やさしい」「よわい」の時代

高浜市さんのつくっているこの特別号は、これからの日本の地方を見つめるうえで、とても大切な要素が詰まっていると感じました。

私たちにとってほんとうの豊かさとは、「おおきい」「きびしい」「つよい」といった、速効性の価値観に基づくものではなく、「ちいさい」「やさしい」「よわい」の3つの言葉が表す、人間味にあふれ、共感を呼び、後からゆっくりじわじわ効いてくるような遅効性の価値観にシフトをしている気がするのです。高浜市を歩けば、この幸せな「ちいさい」「やさしい」「よわい」の価値観が、まちのそこかしこで見つかりそうです。

雑誌『ソトコト』編集長 指出一正さん



月刊「ソトコト」(木楽舎刊)1999年に創刊したソーシャル&エコマガジン。近年はまちづくりや地方移住、仕事づくりなど、日本各地のローカルデザインを紹介



Takahama city

全国のまちの動きを伝える「都市データバック2015年版」(東洋経済新報社)では、全国813市区のランキングが掲載されています。その中で、高浜市を見てみると…

面積…全国813市区中788位です。
人口…全国813市区中604位ですが、人口増加率は64位です。
合計特殊出生率…全国813市区中40位です。
財政力指数…全国813市区中45位です。
第2次産業就業人口…全国813市区中1位です。
※調査対象時点の数値での順位となります。

思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかほま

編集後記

若い世代の方に手にとってもらえる冊子を作りたい!と、地元出身の若手職員にアイデアを求めました。20代の方が市内で自分の時間を楽しむとしたら?30代後半の方が定住の地として高浜市を選び、実現したこととは?と話が広がり、その延長線上に、自分なりに地元を楽しむ方、第2の人生が地域の絆や発信源を創った方との出会いがありました。

こじんまりとして住みやすい、ちいさなまちの楽しみかたを、もっと探していきたい、もっと皆さんの話を聞きたいと思っています。

別冊 広報たかほま 新春特別号
「ちいさなまちの ちいさな楽しみかた」

平成28年1月1日

編集・発行/高浜市役所総合政策グループ
〒444-1389 愛知県高浜市青木町四丁目1番地2
TEL (0566) 52-1111 FAX (0566) 52-1110
<http://www.city.takahama.lg.jp/>
電子メール info@city.takahama.lg.jp